

河村重秀 河村九十九

かわむら・しげひで かわむら・つくも

福山藩少参事

経歴

生:文政6年(1823年)

没:明治17年(1884年)2月18日、享年62歳

天保10年(1839年)5月2日	16歳	儒者本役、弘道館読書掛
安政6年(1859年)5月13日	36歳	砲術掛として、砲術五流の統一を指示
明治2年(1869年)10月初旬	46歳	福山藩少参事(民事局担当)
明治2年(1869年)	46歳	郡奉行兼少参事として北海道三郡を受け取り
明治3年(1870年)11月	47歳	藩校誠之館の責任者

生い立ちと学業、業績

名は重秀、通称は九十九(つくも)。元平(もとひら)。河村元重の子。

明治2年(1869年)10月初旬、福山藩少参事、のち督事を兼ねた。同僚に倉井縫之助・濱野章吉・檜崎新右衛門・武田平之助らがいる。

明治2年(1869年)に郡奉行兼少参事・用人として、北海道三郡を受け取り(小田銀八・郡令、市川久平・会計主簿、山田元三郎・川口村庄屋、藤田松軒・医者、松平義平・道三町らと)。

著書に『明倫撮要』、『倫理略説』、『倫理鳴説』などがある。

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、79頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、23・174・192・220・224頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典3:『郷賢録』、22・59頁、福田禄太郎著、福山城博物館編刊、平成12年10月1日

2011年8月1日追加●